

中小企業ぎふ

2017 2018

12・1

Vol.652

2018年1月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業
2～3

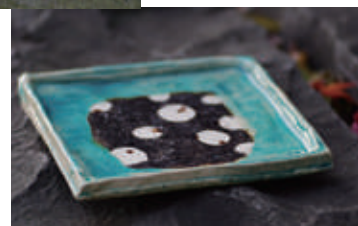
多治見陶磁器卸
商業協同組合
組合員

「株式会社織部」

織部



- 会員組合紹介 4
- 先進組合事例紹介 5
- 中央会の活動 6～12
- 組合等の活動 13～14
- 職員レポート 15
- 12月の景況レポート 16～17
- インフォメーション 18
- (公財) 産業雇用センターからのお知らせ 19
- 年賀広告 20～24



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号 OKBふれあい9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

株式会社 織部

【多治見陶磁器卸商業協同組合 組合員】

《企業概要》 岐阜県多治見市旭が丘10-6-130
美濃焼卸センター
株式会社織部 代表取締役 奥村 崇仁
<http://oribe-minoyaki.com/>



多治見陶磁器卸商業協同組合は、多治見地区の陶磁器卸販売業を営む事業者により昭和9年に設立されました。昭和60年に多治見市内の5商業協同組合・傘下企業約360社を統合して以来、日本陶業界で全国一の規模を誇っています。時代の流れもあり現在の組合員は132名まで減少していますが、陶磁器業界の拠点として、長年業界振興に寄与しています。

組合では、設立以来活発な事業活動を継続しています。陶器を出荷する際の包装資材等の共同購買、損害保険・E T C・車検の取り扱いに始まり、組合員の販路開拓も支援する他、毎年4月に開催する「多治見陶器まつり」は本年度で70回を数えました。また毎月「組合だより」を発行し、組合事業や業界の情報だけでなく、多治見商人物語に続いて多治見偉人物語の連載をしており好評を博しています。ゴルフやボウリング大会など福利厚生事業では、若手からシニアまで幅広い参加があり、青年部の活動も活発です。

今回は、全国に直営店を展開し、伝統的な織部の器から日常使いの食器まで幅広く美濃焼を発信し続けている「(株)織部」を訪問し、当組合の理事も務める奥村崇仁社長にお話をうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革についてご紹介ください。

☞ 奥村社長

当社は、私の父である現会長が、多治見市内で百貨店やブライダルへ陶磁器を卸す会社を1972年に創業したのが始まりで、1975年から多治見美濃焼卸センターに本社を構えています。



奥村崇仁社長

本社移転と同時期に、名古屋駅の地下街テルミナ(現ゲートウォーク)に陶磁器や雑貨の直営店舗をオープンしました。会長はもともと老舗陶磁器販売会社に勤めており、小売業に対する思い入れもあったようです。この1号店をきっかけに、他への出店依頼を受けるようになりました。時代の流れで卸業界が厳しくなる一方で、GMS(総合スーパー)の進出・拡大の波もあり、当社も徐々に卸から小売にシフトし、全国に店舗を展開してきました。今は小売業を主体としており、美濃を代表する窯元の作品からリーズナブルな和洋陶器や雑貨まで幅広く扱い、商品企画も手掛けています。

2007年から同卸センター内で本社を移転し、常時8,000点を超える品揃えの小売店舗兼倉庫として本店を併設しています。本店に次ぐ旗艦店として、旧商家を利用した茶室も備える専門店「うつわ邸」(多治見市)、近代的な建物に和の器やインテリアを展開する「ORIBE NAGOYA」(名古屋市)、器と珈琲をコンセプトとした「織部下北沢」(東京都)があります。この他、カラフルタウンやイオンモール各務原など、全国に約70店舗を展開しています。

私は大学卒業後に他企業での勤務を経て、23歳のときに入社し、2009年より社長を拝命しています。多数の店舗立ち上げに携わりましたが、入社当初に共に汗を流したスタッフが現在も当社を支えてくれています。

◎御社の特徴や方針を教えてください。

☞ 奥村社長

当社の社名は、自由闊達な発想から、非対称で味わい深い造形、鮮やかな色合いの“織部”を創作した大名茶人・古田織部の名前に由来しており、守るべきものは守りながら新たなものを生み出す「伝統と革新」というオリベイズムを大切にしています。伝統的な器を尊重することはもちろん、新進気鋭の作家作品やクラフトにも広く目を向けています。

また、創業時より「暮らしアートフル」という言葉を掲げ、日々の生活に彩りを添えるような提案を心がけてきました。節句や結婚のお祝い、新生活のスタートといった節目の時だけでなく、毎日の食事が楽しくなるような食器、季節の移ろいに合わせた設えなど、日々の暮らしで使う陶磁器を、自社オリジナルで企画・開発しています。

こういった方針のもと、卸業で培ったノウハウや物流機能をもって店舗を展開し、小売店で直接お客様から伺った声を活かした商品企画ができることが



豊富な品揃えを誇る本店

当社の強みです。店頭ポップやポスターなども、社内でデザインしており、気が付いたことがあればすぐにブラッシュアップしています。良いと思ったものはすぐに作って、売って、試してみる、というスピードが、当社の特徴といえるかもしれません。

◎組合に期待することは何ですか？

☞ 奥村社長

組合でしかできないことの一つに「ブランディング」があると思います。ブランドは“名前+信頼”により確立されると考えます。美濃焼は、国内の食器類生産量のシェア50%以上を誇っていますが、「美濃焼ブランド」向上のために取り組めることは、まだまだあるのではないかと思います。

組合は志を同じくして集まる集団であるため、色々な取り組みができる可能性を秘めていると思います。ただ、組合で何かを実現するためには、懇親を深めることも大切ですが、その先にある目標の共有が必要ではないでしょうか。

2016年より、多治見市の中心部“オリベストリート”にある「たじみ創造館」を組合で運営することになりました。かつて陶磁器問屋が軒を並べ、大勢の商人や焼き物を全国へ運ぶ馬車で賑わったというオリベストリートの中核施設として、賑わいを演出できるような企画を進めています。今春の本格稼働を目標に、組合員一丸となり取り組んでおり、私も組合の理事として、理事長をはじめ他組合員を支えていきたいと思っています。



築100年の商家屋に人気作家の作品等が並ぶ「うつわ邸」

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 奥村社長

「共感と賛同」を大切にしています。社長とスタッフ、スタッフとお客様、それぞれの間にまずは共感する思いがあり、思いに賛同して行動に移され、その結果、人に喜んでもらえるの

ではないかと思っています。

店頭では、四季折々を表現するような空間を演出し、お客様に喜んでもらえるような心配りをしています。人の気持ちは微妙な気温や天気の変化に左右されるものです。先週良かったものが今週良いとは限らず、世の中の“風”を敏感に感じ取らなければなりません。例えば、昨日までは汗ばむほど暑かったけれど、急に冷え込むようになれば、土鍋やポップのディスプレイで来店される方の気持ちが温かくなるようにお客様をお迎えします。そういった感性に共感し、賛同したスタッフの思いが、お客様に新たな共感と賛同を生むと信じています。

そのためにはコミュニケーションが不可欠です。最近では、スタッフとすぐにやり取りができるため、LINEを活用して情報交換をしています。時には厳しいことを伝えないといけない場合もありますが、楽しさも合わせもち、スタッフ全員がそれぞれ主人公としてやりがいを感じてほしいと思います。

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 奥村社長

現在、多治見駅の北側に新店舗を立ち上げる予定です。当社の軸である「伝統と革新」のうち、お客様に新しい刺激を提案し続ける「革新」を担う店舗として構想を練っています。

百円均一をはじめ、安価に食器を扱う店舗が陶磁器のプライスリーダー的な役割を果たしていることは否めません。その中で、当社は差別化を図っていかなければなりません。その根底にあるのは、やはり、地元に根差した企業としての活動が支えになると考えています。

地域貢献の一環として、陶磁器にもっと親しみを感じてもらえるような機会を提供するため、自由に土を触ることができる創作の場「ねんどパーク」を計画しています。モノをつくる楽しさ、誰かに贈りものをする時の気持ちなど、色々な思いが込められる場となることを願っています。

これからも、窯元と志を共にし、地域の発展を支えられるような活動を続けていきたいと思っています。

【組合概要】

多治見陶磁器卸商業協同組合

理事長 竹内幸太郎(株式会社金正陶器 代表取締役会長)

〒507-0841 岐阜県多治見市明治町2丁目4番地

組合員数:132社

主な事業:共同購買、販路開拓、福利厚生事業



組合紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けていますので、皆様の仲間を紹介します。



岐阜県石灰工業協同組合

- 理事長 上田和男
- 組合員数 14人
- 設立年月 昭和22年2月
- 住所 岐阜県大垣市昼飯町113番地2
- TEL 0584-71-1160

◆組合の歴史・活動



上田和男理事長

当組合は、岐阜県内で石灰を製造又は販売する事業者で組織する事業協同組合です。主に大垣市赤坂にある金生山石灰石鉱山から石灰石を採掘・出荷しており、全組合員が創業100年以上の老舗企業です。

全国には約300の鉱山があり、各地で石灰・セメント

工業都市“砒都”が発展してきました。石灰石は日本では数少ない自給できる資源で「白いダイヤモンド」と呼ばれていますが、石灰ときいて、運動場に引く白いラインを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし、それは石灰の用途のごく一部にすぎません。鉱山で採掘した石灰石の多くは、鉄鋼用、セメント、土木・建築用として搬出されます。また、石灰石を焼成した白い塊状または粉末状のものを“生石灰”、それをさらに水で反応させてできる白色の粉末状の物質を“消石灰”といい、生石灰・消石灰の総称を石灰といいます。石灰の製造には高度な加工技術が必要となりますが、石灰の用途は、製鉄工場で不純物を除去するための工程や、ソーダガラス、薬品等の化学製品、漆喰などの建材、農業用肥料、食品の乾燥剤、排煙や排水の浄化、鳥インフルエンザ等の防疫用など、非常に幅広い場面で使われています。

金生山石灰石鉱山はリン分の低い良質の石灰がとれることで有名です。岐阜県は、この石灰（消石灰）の出荷額において、全国1位を誇っています。

金生山石灰石鉱山の開発の歴史は古く、今からおおよそ290年前の江戸中期「享保15年に我が国で初めて石灰が焼かれ、品質は良好で濃州灰と称され、主に漆喰用として用いられた」という記述が土佐の石灰史に残っています。明治時代初期には肥料用としての用途が広がり、明治20年前後に同地区において複数の石灰製造事業者が創業し、組合規約が結ばれました。さらに石灰の用途は

工業用として需要が拡大し、任意組合や株式会社など形を変えながらも、共同販売や品質改良、検量、取引先の開拓などを協力して行っていました。出荷は、杭瀬川による舟出しや垂井・大垣・関ヶ原の駅まで馬車で行っていましたが、この地区の石灰製造事業者の働きかけもあり、大正8年に美濃赤坂線、続いて昭和3年西濃鉄道が開通しました。

昭和に入ると、製鉄用・製鉄鋼用の需要が著しく増加します。工業組合法が制定され、石灰が重要工産物に指定されたことを契機に、昭和7年、全国初の石灰工業組合である「美濃石灰工業組合」を設立します。地区の拡大に伴い「岐阜県石灰業組合」と改称し、検査事業や信用事業、包装資材の共同購入も実施するようになりました。そして、戦後の法改正に伴い、昭和22年、現在の「岐阜県石灰工業協同組合」が誕生します。また、鉱業法に基づく金生山石灰石鉱山の採掘許可を得るため、昭和32年に「金生山石灰石鉱業組合」を設立。現在に至るまで、この2つの組合が密接に連携し、入出荷や保安管理、労働環境の整備などを推進しています。

戦後の復興とともに1960年頃から鉄鋼業、化学工業が盛んとなったことを背景に、石灰の生産量も飛躍的に増加し、設備の大型化が進みました。一方、社会では大気汚染を中心とした公害が問題となり、その対策が急務となっていました。このため、石炭・コークス等の固体燃料からガス等の液体燃料を使用する新型炉への切り替えや作業の合理化、振動の軽減等、環境に配慮するための取り組みを組合員一丸となって推し進めました。また、金生山石灰石鉱山は住宅地に近いこともあり、地域との共生も大切にしています。鉱区に入った車両はすべて下山する際に自動洗濯機を2回通り、タイヤに泥をつけたまま一般道には出ない規則を設けています。加えて、組合により毎日近隣の道路を“ロードスウィーパー”で清掃しています。

◆組合が目指す方向性とは

石灰は、生活資材として、また産業資材として幅広く利用されていますが、他業界の動向に大きく左右されることもあります。石灰業界では、他業界への依存を抑えるため、長年にわたり新商品・新技術の開発や新用途の開拓等を目的とした構造改革事業に取り組んできました。その結果、用途は徐々に広がってきています。石灰がアルカリ資源であることから、石油や石炭を燃焼した際に発生する酸性物を中和させるなど、環境分野で注目を集めています。また、バイオテクノロジーや医療分野の合成物質として、あるいはカルシウムやマグネシウムなどといった成分として幅広い活用が期待されており、

※組合紹介が可能な組合がございましたら、中央会の国際・情報課までお知らせください。

可能性は無限に広がってきています。

上田理事長は「鉱山事業で最も大切なことは安全である。組合員と金生山石灰石鉱業組合と連携して工場巡視を行い、問題点を指摘し合い、リスクマネジメントを一体となって進めている。安全は企業経営とものづくりの基盤であり、引き続き安全確保を徹底していく。その上で、人手不足は中長期的な課題と認識している。その一つが技能伝承だ。高い技術を持つベテラン社員から若手社員に伝える取り組みを推進している。また、業界として、石灰は防疫などの多様な用途があり、今後多様な分野への可能性を追求していくことができるという魅力



ベッケンバツバ炉

を、若い人にも伝えていきたい。地元の小学生の社会見学や高校生のインターンシップの受け入れにも積極的に取り組んでいき、石灰業界全体の知名度アップにもつなげていきたい」と今後の抱負を話されました。



金生山石灰石鉱山上空から

～日頃のつながり・備え・学びが地域の財産～

全国の先進組合事例

○地域の安全・安心に向けた支援活動

愛知水質検査協同組合

災害時に地域住民の心を潤す

安心・安全な水の提供に向けた取り組み

- 住所 〒441-0316 愛知県豊川市御津町赤根下川50番地
- 電話番号 0533-65-3571 ■URL <http://www.aiweb.or.jp/aisuiso/>
- 設立 平成12年5月 ■出資金 400千円
- 主な業種 水質検査を行う事業者 ■組合員 4人

■背景と目的

近年、東日本大震災や熊本地震など大規模な災害が続くなか、災害時における生命維持のための飲料水及び生活用水の安全確保が重要であることから、組合として取り組むことが水質検査業者としての社会的使命を果たすことになるのではないかとこの声の内部で上がった。

■事業・活動の内容と手法

災害発生時には、行政側からの災害要請により自衛隊等が給水設備の設置を行うが、実際には設置稼働までに時間がかかる可能性が高く、安全な飲料水及び生活用水の確保が一刻も早く必要となる状況が想定される。こうした想定下において、災害時には水道施設、貯水槽及び井戸並びにその他の給水用設備の水質について検査を行い、安全を確認してから使用することが必須であると考え、平成27年12月10日、行政と組合の間において災害時の水質検査業務の協力実施に関する協定を締結した。

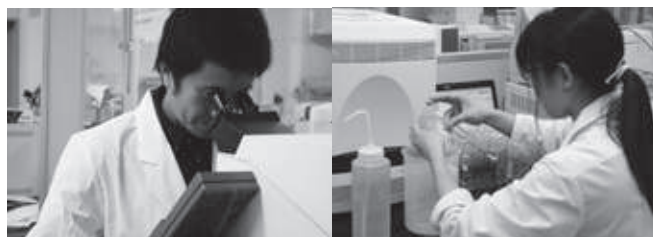
具体的には、災害時は地域ごとの井戸及びその他給水用施設等の水資源が有効活用されるが、災害時に発生する様々な環境変化により有害な化学物質等が飲料水に混

入する恐れがあるため、水質汚染の状況を速やかに分析及び検査し、飲料水として使用できるか否かを判定。地域住民にとって安心・安全な水環境を確保するための水質検査業務の協力をを行うこととしている。

今後の展開として、大規模災害に備え、平常時の水質検査業務の協力実施に関する協定を締結し、県内の井戸水の稼働状況について日常的に把握するため、定期的な水質検査業務を行政から受注し、井戸水の状況を定期発信することで、安心・安全な飲料水確保に寄与するとともに、組合の共同受注においても活性化が期待できると考えている。

■成果

愛知県と非常時の水質検査について災害協力協定を締結することができた。今後は、平常時の水質検査について協力協定を締結し、県内に多数分布している井戸等の水資源の現況について定期的に分析を行い、非常時にすぐに活用できる水資源をデータベース化して管理し、安全な飲料水確保に寄与することを目標にしている。



① 事業・活動推進のキーファクター

行政側とコミュニケーションを図り、組合の特色と協力体制を根気よく伝え、信頼関係を結び、現状に満足せず常に非常時の状況を想定し、災害時の「もしも」に備えること。

会長新春インタビュー

平成30年、明けましておめでとうございます。年頭にあたり会員の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。さて、我が国経済は、安倍政権発足以来GDPは約45兆円増加、企業収益が過去最高水準となり、昨年7月から9月までのGDPは年率換算で実質1.4%増となるなど経済の好循環は着実に回り始めていることがうかがわれます。また、雇用は185万人近く拡大し、全ての都道府県で有効求人倍率が1倍を超えるなど、長期にわたる景気回復が続いています。

一方で、地域経済は、業種、企業規模、地域によっては、未だ厳しい状況におかれているところがあるのも事実です。また、中小企業・小規模事業者は、少子高齢化に伴う人材不足や大企業との生産性の格差など、構造的とも言える課題にも直面しています。

本会としては、中小企業連携組織の専門機関として、こうした懸念を払拭して経済の好循環を確実なものにしていき、中小企業組合及び中小企業の活力ある発展のための取り組みを行ってまいります。

個々の組合等が抱える課題解決に対応するため、会員の皆様のニーズの把握につとめ、期待に応えていく所存です。今後ともご支援方よろしくお願い申し上げます。

『組合のニーズに応えるパートナー・中央会』

～立ちあがろう中小企業、日本のために～

❖昨年を振り返って

中央会は、『組合のニーズに応えるパートナー・中央会』をスローガンに、中小企業の更なる活力強化を図るため、『立ちあがろう中小企業、日本のために』を訴え、組合及び中小企業のための活動を推進した。

日本経済は景気回復が続いているといわれるが、県内中小企業は、未だ回復を実感するには至っていない。深刻化する人手不足、経営者の高齢化に伴う事業継承などが課題であり、解決のための対応が急務である。

中央会では昨年11月にベトナム視察研修を実施し、ハノイ、ダナン、フエを訪問した。現地で活躍する日系中小企業の視察や交流会を通して、ベトナムは中小企業の進出適地だと感じた。日本は人口減少で今後の市場縮小は避けられない。中小企業は尻込みせず、まず進出してみることが大切である。

また、2012年から国のものづくり補助金地域事務局として、県内企業を支援しているが、これまでの5年間で延べ1,127件が採択され、補助金額は約100億円に達した。県内には新商品や新技術開発に意欲のある企業が多い証拠であり、今後は採択された企業が開発した商品の販路開拓が課題となる。

❖今年の見通し

政府の見通しでは「新しい政策パッケージにより雇用・所得環境の改善が続き消費や設備投資など民需を中心とした景気回復が見込まれる」と発表されている。また、IoT、ビッグデータ、人工知能に代表される第4次産業革命のイノベーションをあらゆる場面に取り入れ、様々な業種、企業、人、データ、機械などのつながりによって新たな付加価値や製品・サービスの創出に向けた取り組みが推進される。中小企業施策としては、事業継承、生産性の向上のための設備投資支援やIT活用支援、働き方改革実現に向けた対策に重点がおかれる。

中小企業の経営者は、景況感に左右されるのではなく、自らが動いて情報収集をし、自社の社員の顔を見て、自分で考えて決めたことをやるべきだと考える。賃上げも政府に言われて実施するのではなく、自社の経営判断として実施すべきではないか。会員組合等には、広い視野を持ち、海外進出や中小企業同士の連携にも目を向けた積極的な展開を期待している。

❖中央会の活動と方針

中央会は、組合のニーズに応えるパートナーとして、組合の存在価値と情報発信力を高める『組合ブランド』の確立・強化に取り組んでいく。平成30年度においては、中央会の恒常的活動である巡回、窓口相談等により把握した組合等のニーズに対し、専門家の派遣による課題解決策の提案、情報提供、研修会に取り組むと共に、重点事業として次の事業に取り組む。

- 1 組合・企業間連携の促進と新商品開発、販売力強化の支援
- 2 深刻な人手不足対策としての人材確保支援
- 3 組合事務局及び組合員企業で働く女性の活躍推進
- 4 ものづくり補助金にかかる地域事務局の運営

具体的には、地域資源に着目した新たな需要開拓や新商品開発のための連携促進事業、新卒だけでなく既卒者や転職希望者も対象にした合同就職説明会、組合の女性職員による懇談会を実施する。また、「ぎふものづくり連携倶楽部(G-club)」を立ち上げ、ものづくり補助金の交付企業に参加を呼びかけ、企業交流会やビジネス展示会などにより、販路開拓と企業連携を支援する。



今年の抱負を語る会長

中央会活動

理事会並びに役員交流会を開催

中央会は、理事会及び講演会、並びに役員交流会を11月28日に岐阜グランドホテルで開催した。

理事会には本会役員37名が出席し、来年度の事業計画及び収支予算の概案等について審議したほか、今年度の主な事業の進捗状況等について報告した。続いて、中部経済産業局の富吉賢一局長より「中部地域の経済動向と今後の展望」をテーマに講演会を行った。

理事会終了後には、古田肇岐阜県知事を迎えて役員交流会を開催した。

【理事会】

開会にあたり社会長は「ものづくり補助金の地域事務局を平成24年度から担ってきたが、今年度からは補助金を受けた企業のフォローアップを行うものづくりフォローアップ事業の事務局も設置し、今後5年間にわたって販路開拓等の支援を行う。先日ベトナム視察研修を行った。ベトナムはビジネスとして進出適地であると肌で感じ、中小企業の海外進出の必要性を感じた。これを契機に海外展開支援にも積極的に取り組んでいきたい。引き続き会員の方々のお役に立てることを考え、頑張っていく」とあいさつした。

続いて議案審議に入り、平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)の概案の承認について審議し、原案どおり可決決定した。また、新規加入組合等のほか、今年度の主な事業の進捗状況についても報告を行った。

新規加入組合等は次のとおり(平成29年4月22日～平成29年11月27日まで)。
※()内は所在地、組合員数。

【1号会員】▽未来創造協同組合(高山市・4名)▽MTH協同組合(岐阜市・6名)▽テンポイント協同組合(大垣市・20名)▽郡上製材協同組合(郡上市・7名)▽協同組合イノベーション(岐阜市・7名)▽スマイルバンク事業協同組合(岐阜市・5名)▽岐阜県葬祭業協同組合(関市・25名)▽FIL協同組合(海津市・10名)

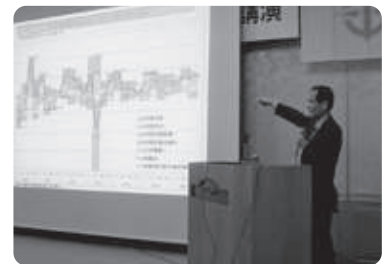


理事会の開会にあたり社会長があいさつ

【講演会】

中部経済産業局の富吉賢一局長は、経済動向について、中部地域は「全体として改善している」、日本経済は「非常に安定した状態で企業の海外進出により日本経済が強化されている」、世界経済は「世界同時好景気で日本経済を牽引する要因となっている。アジア途上国の成長が著しくアメリカは縮小しているものの安定した市場、ヨーロッパ・日本は今後の縮小が予測される」と説明。今後は、成長しているアジア市場への進出が日本企業生き残りの鍵であり、企業の海外展開は必須であると強調した。

企業の海外展開にあたっては「国連が示すSDGs(持続可能な開発目標)では民間企業の力が非常に重要視されており、開発目標に関わることができるかがビジネスチャンスにつながる。また、国の国際的支援施策と中小企業支援施策はリンクしている。是非JETROや中小企業基盤整備機構、JICAといった支援機関を活用されたい」と話し、インドネシアにおいて中小企業が金型設計等の技術者育成事業を実施している事例等が紹介された。



富吉中部経済産業局長による講演会

【役員交流会】

古田肇岐阜県知事をはじめ、講演に引き続き富吉中部経済産業局長、その他多くの来賓を迎え、役員交流会を開催した。古田知事は「県をあげて、県産品の海外展開支援を強力に推進しており、成果が見えてきたところである。また先日中央会が視察したベトナム・フエ省は、県と交流をすすめてきたこともあり、こうした取り組みは非常にありがたい。東京オリンピック・パラリンピックで県産材を使用してもらうよう働きかけをしており、選手村内の施設等に岐阜県のヒノキと杉を使用することになった。岐阜県を舞台としたアニメや今後始まるNHKのドラマなどでさらに訪問者が増えることを期待している。岐阜県には沢山の魅力がまだまだある。スピード感をもって、積極的にアピールしていきたい」とあいさつした。

また、歓談の合間には、増田JETRO岐阜所長や関副会長、今井副会長より、ベトナム視察の成果が報告される場面もあった。



交流会で古田知事があいさつ

平成30年度第1回理事会は、4月19日(木)の10時30分よりOKBふれあい会館「大会議室」、第63回通常総会は、6月12日(火)の15時30分より岐阜都ホテル「ボールルーム」で開催する予定です。

ベトナム視察研修 2017.11.13~17

中央会では、昨年11月13日より17日まで、ベトナム視察研修を行った。社会長を団長、JETRO岐阜の増田所長を副団長として、ハノイ、ダナン、フエを訪問、ホーチミンを経由して帰国した。いささか強行軍ではあったものの大変有意義な研修となった。

今回のミッションは、中小企業の海外展開の実情と将来性を探るために行った。特にベトナムは、ポスト中国といわれ、近年の発展は著しい。そして、今回の視察でベトナムの人々は、勤勉で、手先が器用、また、親日的であることがよく理解できた。

社会長は、かねがね豊田佐吉翁の『障子を開けてみよ、外は広いぞ』との言葉を引き、「これからの中小企業は、尻込みせず、海外に打って出ることである」と語られる。かつての日本の高度経済成長期にも匹敵すると言われるベトナムの人々のエネルギーを肌で感じ、中小企業の海外戦略の必要性を実感した視察研修であった。

○参加者名簿

辻 正 (本会 会長 / ㈱インフォファーム 会長)、辻 幸子 (社会長 奥様)	高橋 淳 (岐阜県可児工業団地(協) 参事兼事務局長)
増田 智子 (日本貿易振興機構 岐阜貿易情報センター 所長)	小木曾弘和 (県商工労働部産業技術課ITものづくり室 室長)
関 道朗 (本会 副会長 / 柏木工(株) 代表取締役社長)	秋山 啄士 (県商工労働部産業技術課ITものづくり室 主事)
今井 哲夫 (本会 副会長 / 今井航空機器工業(株) 代表取締役)	鈴木 隆宏 (㈱岐阜新聞 編集局報道部記者)
辻 守重 (本会 副会長 / 丸重製紙企業組合 理事・顧問)、辻 友子 (辻副会長 奥様)	志村 隆雄 (本会 専務理事)
児玉 栄一 (本会 常任理事 / コタマ樹脂工業(株) 代表取締役社長)	大沼 浩宣 (本会 事務局長)
林 敬一郎 (岐阜産研工業(株) 代表取締役社長)	

○訪問先レポート

11月14日 ハノイ市

在ベトナム日本国大使公邸

ハノイ市にある在ベトナム日本国大使館・大使公邸を訪問し、梅田邦夫大使と1時間超におよび面談した。

梅田大使より11月6日より11日まで開催されたAPECの様相を伺い、ベトナムの政治・経済状況について説明を受けた。

特に今回APECが開催されたダナンが今のベトナムを象徴する重要な場所であり、ベトナムにとって戦略上の拠点であることの説明があった。また、ベトナムには、韓国が経済的にも社会的にも入り込んできている実態を何うとともに、ベトナムは親日国であり日本への信頼が厚い。しかし、日本の企業がベトナムに進出する場合、ベトナム(政府等)の対応が遅い等困難をきたす場合が多々あり、その時は、遠慮なく大使館を活用してほしい旨の話があった。



日本貿易振興機構(ジェトロ) ハノイ事務所

ハノイ市にあるJETROハノイ事務所を訪問し、北川浩伸所長よりベトナム経済の状況等の説明を受けた。ベトナムの経済は順調であり、昨年、全世界からの投資件数が過去最高を記録した。ベトナムで働く人々の賃金は未だ低く一見貧しいように見えるが、若い人たちは親の恩恵を受け日本と変わらないライフスタイルに変化してきている等の説明があった。



FPTコーポレーション

ハノイ市にあるFPTコーポレーションを訪問し、チュオン・ザー・ビン会長はじめ幹部社員の方と面談・意見交換を行った。FPTコーポレーションは、ベトナム最大のIT企業であり、グループでの従業員数は3万名を超える。FTPコーポレーション発展の様子や大学の設置等の積極的な事業展開について説明を受けた。

面談の場では、社会長とビン会長の10数年の旧交を温める和やかな場面もあり、日本企業との今後のビジョン等について意見交換を行った。



OKBコンサルティング・ベトナム

ハノイ市にあるOKBコンサルティング・ベトナムを訪問。市来圭社長に出迎えて頂き、事務所の様子等を伺った。



進出企業及び元ベトナム人留学生との交流会

岐阜県よりベトナムに進出している企業と岐阜大学への元ベトナム人留学生との交流会をハノイ市のレストラン「Wild Lotus Restaurant」で行った。

進出企業のベトナムでのビジネス展開や人材についての経験談を伺い、元ベトナム人留学生とは、岐阜での思い出話に花が咲いた。



○交流会参加企業等

矢橋ホールディングス株式会社、カイ インダストリーズ株式会社、株式会社鈴木栄光堂、TSUCHIYA株式会社、ムトー精工株式会社、株式会社ハシマ、学校法人神野学園、株式会社十六銀行、株式会社大垣共立銀行、岐阜大学卒業生

○行程表

13日(月)●岐阜→ハノイ

中部国際空港にて出発式
 中部国際空港
 →成田国際空港
 →ノイバイ国際空港(ベトナム・ハノイ)

14日(火)●ハノイ

- ・在ベトナム日本大使館
- ・JETROハノイ事務所
- ・OKBコンサルティング・ベトナム
- ・FTPコーポレーション
- ・進出企業及び元ベトナム人留学生との交流会
 (Wild Lotus Restaurant)

15日(水)●ハノイ→ダナン

- ・丹羽鑄造ベトナム
- ・東京計器ベトナム

16日(木)●ダナン→フエ→ホーチミン

- ・トゥアティエン=フエ省人民委員会
- ・グエン朝王宮(世界遺産)

17日(金)●ホーチミン→岐阜

タンソンニャット国際空港(ベトナム・ホーチミン)
 →成田国際空港
 →中部国際空港

○地図



11月15日 ダナン市

丹羽鑄造ベトナム

ダナン市ダナンハイテクパークの丹羽鑄造ベトナム(丹羽大社長)を訪問・視察した。丹羽鑄造ベトナムは、本会の丹羽龍常任理事の企業である丹羽鑄造(株)の初の海外進出企業である。丹羽鑄造ベトナムの概要、ダナンハイテクパークへの進出の経緯、また、現在の工場の稼働状況及び現地従業員の人材確保・育成等について説明を受けた。

また、操業後1年10ヶ月が経過した工場の現在の操業状況等を視察した。



東京計器ベトナム

ダナン市ダナンハイテクパークの東京計器ベトナム(上岡信夫社長)を訪問・視察した。東京計器の概要とダナンハイテクパークにおける操業状況について説明を受け、工場内を視察した。



11月16日 トゥアティエン=フエ省フエ市

トゥアティエン=フエ省人民委員会

トゥアティエン=フエ省のトゥアティエン=フエ省人民委員会を訪問し、グエン・ヴァン・カオ人民委員会委員長他フエ省幹部と面会した。

席上、岐阜県とフエ省との一層の交流促進について意見交換を行った。また、本会の関副会長、今井副会長、辻副会長、児玉常任理事より、自社の業務内容やベトナムへの期待等を英語でプレゼンテーションを行った。グエン・ヴァン・カオ人民委員会委員長より歓迎の意が示され、今後、観光、医療、介護、手工芸、酒造、縫製、ソフト開発、飲食業等のサービス業における連携を期待する旨の話があった。



グエン朝王宮(世界遺産)

トゥアティエン=フエ省人民委員会に配慮頂き、1802年から1945年までの143年間の長きにわたり、ベトナム最後の王朝がおかれた、世界遺産のグエン朝王宮を見学した。



ものづくり補助事業成果事例発表会を開催

中央会は、「ものづくり補助事業成果事例発表会」を12月4日（月）に岐阜都ホテルで開催し、県内の中小企業者ら約200人が参加した。

テーマは「一歩先へ!ぎふを支える中小企業」。ものづくり補助金を活用して開発された製品やサービスなどの展示会・事例発表会と、中小企業者向けエールを送る講演会を行った。

展示会では、平成26年度補正・27年度補正のものづくり補助事業に採択された企業の中から成果事例として10社が展示コーナーに出展し、各ブースでは新製品や新技術等が紹介された。会場にはビジネスマッチングのための商談コーナーも設置し、多数の来場者で賑わった。また、展示企業のうち3社が成果事例発表会として取り組み内容を発表した。



続いて、「2018年の経済動向と中小企業が目指すべき戦略の方向性」と題し、慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科の岸博之教授による講演会を開催した。岸教授は、東京オリンピック後の景気減速を示唆し、その対策としてデジタル化の推進による生産性向上やイノベーションの創出に取り組む必要性を強調。「岐阜県の中小企業はイノベーションを創出する土壌が十分あり、技術分野だけでなく、販路開拓やPRの場にもチャンスはある」と述べた。

なお、今回の展示や発表以外の事例も掲載する「成果事例集（H26年度補正・H27年度補正補助事業分）」を作成しており、来場者に配布した他、中央会会員組合、補助金採択事業者や県内認定支援機関等に送付した。



◆出展企業の展示ブース◆

(順不同) 企業名 / 代表者名 / 採択事業年度 / 事業計画名

事例発表

《化学工業》

長良サイエンス株式会社

(代表取締役社長 中塚進一)

H26補

質量分析計（LC/MS/MS）による迅速な薬理活性試薬の開発

H27補

超伝導核磁気共鳴装置（NMR）による薬理活性物質の迅速な構造及び純度解明



《情報サービス》

株式会社サイエンスネット

(代表取締役 深井隆司)

H26補

分散型クラウドを利用した高セキュリティー在宅医療／訪問看護アプリ開発



《印刷・同関連業》

株式会社巧報社

(代表取締役 山中好枝)

H26補

商品のキャラクターの知名度アップのためグッズへの印刷をして販路拡大を図る事業計画



事例発表

《その他の製造業》

株式会社ブイ・アール・テクノセンター

(代表取締役社長 世良直己)

H26補

地域ネットワークを活用した在宅介護向け見守りロボットシステム製品化開発



《木材・木製品製造業》

株式会社柿下木材工業所

(代表取締役 柿下孝司)

H26補

3Dターニングマシン導入による高付加価値木製照明器具の試作開発



《生産用機械器具製造業》

タイムオートマシン株式会社

(代表取締役 小島重威)

H26補

大気圧ドライプロセスにてフッ素樹脂の高密着化を実現する表面処理の技術開発



《金属製品製造業》

株式会社サンクラフト

(代表取締役社長 川嶋紹市)

H26補

ピーラー、パン切りナイフの品質を左右する熟練職人の研削刃付け技術の承継



事例発表

《技術サービス業》

株式会社モールデック

(代表取締役 奥村靖)

H27補

デジタルサイネージ用複数事業者対応コンテンツ配信システム構築事業



《食品製造業》

グルマンマルセ株式会社

(代表取締役 鈴木政裕)

H27補

真空冷却技術を活用した半焼成冷凍パンの製造・販売システム構築



《非鉄金属製造業》

林刃物株式会社

(代表取締役 林裕之)

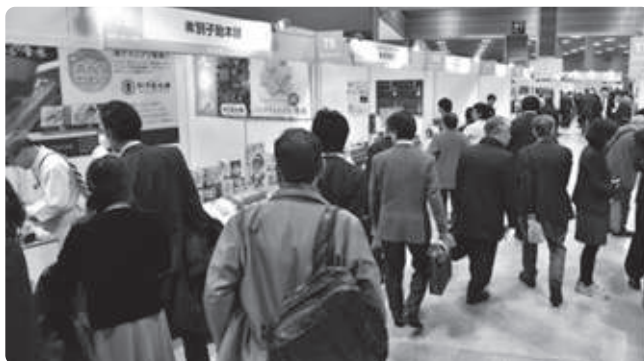
H27補

工具分野でのデザイン面の付加価値を追加し、医療分野では現場のトレーサビリティをサポートするレーザーマーカ導入



中小企業新ものづくり・新サービス展

全国中小企業団体中央会が主催する「ものづくり補助事業成果発表・ビジネスマッチング会」が11月28日～30日にインデックス大阪で、12月6日～8日に東京ビッグサイトで開催され、岐阜県内で補助事業に取り組んだ事業者も、大阪会場には15社、東京会場には7社が出展し、新たな販路開拓に向け事業の成果を積極的にPRした。



「地域資源活用研究事業」経過報告(第4回・第5回)

中央会は、事業者間の交流により、3年計画で新商品・新技術開発を目指す「地域資源活用研究事業」を実施している。今年度は第1回目にオリエンテーション・特別講義を実施した後、県内地域資源に関する製造現場の視察として、第2回に丸重製紙企業組合(和紙製造)、第3回に義春刃物(株)(刃物製造)を訪問し、連携のアイデアについて意見交換をした。

第4回目(11月22日)は、美濃加茂市の社内一貫生産と意匠性の高い商品開発を得意として合成樹脂を加工製造する「(株)フクシマ化学」を訪問し、生産管理部岩崎係長と製造部今井次長の案内により、成形や研磨、印刷・塗装、検査などの工程を見学し、複雑な設計や曲面、止水性などに対応した技術で水回り分野に特化してきた経緯や、自社製品であるマイクロナノバブルが発生するシャワーヘッドが紹介された。

第5回(12月14日)は、土岐市の薄さ1mmの陶器を製造する「丸直製陶所」を訪れ、奥田代表より、光にかざすと飲み物が透けるほどの薄さを手造りにこだわって製造する技術や、銅板転写の技法を用いた絵付けを手作業で行う様子が紹介された。続いて、陶磁器を機械により大量生産をしている「(株)フタダ」へ移動し、小林社長・宮川工場長より、成型や磨き、印刷などの工程の大半に機械が導入されている様子が説明され、同じ陶磁器業界でも全く製法が異なることに他業界の参加者からは驚きの声が聞かれた。

各回の視察後には、視察の感想や質問、意見、具体的な連携・新商品のアイデアを挙げる意見交換会を実施した。また第3回までに出された案の中から試作品の製作をすすめており、途中経過が報告された。

企業視察は今回で終了し、次回の最終回では、これまでの振り返りを行い具体的に検討をすすめていくアイデアを抽出すると共に、来年度の方向性を協議する。



第4回意見交換会の様子



丸直製陶所視察



(株)フタダ視察

レディースクラブが「全国フォーラムin東京」に参加

東京都目黒区のホテル雅叙園東京において、11月16日に「平成29年度レディース中央会全国フォーラムin東京」が開催され、全国各地から約250名の女性経営者や組合等の関係者が一堂に会した。本会レディースクラブからは10人が参加し、全国の女性経営者らと交流を深めた。

基調講演では、(株)キャラウィットの上岡実弥子代表取締役より、「地方創生に果たす女性経営者の役割」、富士電子工業(株)の渡邊弘子代表取締役社長から「強気の事業継承とダイバーシティ~女性経営者が我が経営を語る~」と題して講演会があった。

その後の交流パーティーでは、エジプトのタンヌーラ舞踊や日光江戸村によるアトラクションで大いに盛り上がりを見せた。また、今年度で全国レディース中央会が創立10周年を迎えることから、平賀ノブ会長、加藤智子副会長(本会レディースクラブ会長)、深沢紗世子副会長、伊庭節子副会長に対して、大村功作全国中央会会長より表彰状が贈呈された。



全国レディース中央会の正副会長を表彰

官公需確保フォーラムを開催

中央会と岐阜県建設関連業団体部会(荒川晶一部会長)は、中小企業の官公需確保を支援するため、11月22日に「県官公需フォーラム」を岐阜都ホテルで開催し、部会員25名が参加した。

県担当者との懇談会では、荒川部会長並びに県土整備部の宮島土木技監からあいさつがあった。続いて、県担当者から事前に提出した要望に対する回答があり、部会員から業界の状況等が報告された。

続いて県議会幹部議員との懇談会では、村下貴夫県議会議長、水野正敏(総務)、酒向薫(企画経済)、田中勝士(厚生環境)、小原尚(土木)、加藤大博(教育警察)の各常任委員長、玉田和浩自由民主党岐阜県連政調会長が出席した。各部会員より業界の課題等について要望し、出席議員の方々から「中小企業の発展は県活性化の源である。今後、県庁舎の建て替えやリニア関連の工事等の県内公共工事において、地産地消につながる取り組みを推進したい」といった所見が述べられた。



県議会議員との懇談会

組合等活動

第60回全国銘木展示大会を開催

岐阜県銘木協同組合(吉田芳治理事長)

全国の銘木が一堂に集まる「第60回全国銘木展示大会」が11月12日から4日間にわたって開催された。大会は銘木のPRや需要拡大を図ることを目的に全国銘木連合会の主催で開催されており、今回は岐阜県銘木(協)が主管として実施した。

展示大会では、岐阜市の組合事務所で、全国各地から高樹齢の原木と銘木を加工した製品がずらりと並ぶ市が開催された。また、近年ケヤキの売れ行きが低迷していることから、需要喚起を図るため、新たな利用方法を提案する特別企画「KEYAKI REVOLUTION」の展示もされた。

期間中の13日には、大会の記念式典がグランヴェール岐山で、全国銘木連合会と岐阜県銘木(協)がともに創立70周年を迎えたことと合わせて盛大に催され、関係者約120人が出席した。優秀作品や功労者の表彰が行われ、ケヤキの原木が内閣総理大臣賞を受賞した他、長年にわたり高級原木を出品した功績を称え、原木出品者に対しては今回初めて銘木大賞が贈呈された。

吉田理事長は「銘木という伝統産業から成長産業へとステップアップし、日本の木の文化を次世代に継承していきたい」と抱負を話した。



原木市の様子

「工業高校生金型コンテスト」を開催

岐阜県金型工業組合(黒田隆理事長)

岐阜県金型工業組合は、岐阜県教育委員会との共催で、今年度で2回目となる「工業高校生金型コンテスト」を開催し、12月8日に美濃加茂市の県立国際たくみアカデミーで審査及び表彰式を行った。

この事業は、県内の工業高校生が金型設計から製品製造までの一連の工程を通して、実践的な技術や技能を使いながらものづくりの楽しさを体感すると共に、金型企業と工業高校の連携をはかり、将来を担うものづくり人材の育成・定着を目的としている。

コンテストの課題は「地域らしさを表したキーホルダーの製作」。県内の工業高校10校が参加し、1チームにつき1組員企業がサポート。生徒は4月から金型の基礎・設計・加工について直接指導を受けながら、学んだ技術・技能を駆使してオリジナルの金型製作に取り組んだ。

今回は新たな試みもあり、評価項目に「生徒自らが製作作業に取り組み、楽しくものづくりができたか」を導入し、組員企業はサポートに徹した。また、コンテストの周知に際して、本会の助成事業「組合等活動応援助成事業」を活用してポスターを作成。さらに審査では、各校が製作した金型とキーホルダー、設計図等の展示に加え、新たに「金型組付け作業」と「プレゼンテーション」を追加した。プレゼン審査では、金型に関するプロである審査員の鋭い質問に、生徒が困惑しながらも一生懸命回答する場面もあった。

黒田理事長は、「ハイレベルな作品に驚いた。生徒たちがものづくりの楽しさを学び、成長する様子を感じられた。今後もコンテストを継続し、多くの人に金型業界を知ってもらい、将来、金型業界で活躍する人材が生まれることを期待したい」と話した。

【優秀賞】 プレス部門＝大垣工業高校、射出部門＝大垣工業高校



プレス型の作品



射出型の作品



中央会の助成事業を活用したポスター

岐阜大学長が岐阜流通センターを視察

岐阜流通センター協同組合連合会(辻正会長)

国立大学法人岐阜大学の森脇久隆学長が、12月11日、岐阜流通センター協同組合連合会が管理運営する岐阜市柳津の岐阜流通センターを訪問し、社長の案内のもと、会員企業の視察を行った。同連合会は、(協)岐阜総合卸センター、岐阜県貨物流通団地(協)、岐阜団地倉庫(協)の3組合で構成。計55社が加盟し、従業員2千人、流通高2千億円で県内流通の根幹を担っている。視察先は、業務用食材専門商社の(株)ヤマ食、メンズファッションアパレルの(株)水甚、運輸・倉庫業の西濃運輸(株)、濃飛倉庫運輸(株)。

岐阜大学では2025年に向けた将来ビジョンとして「地域活性化の中核拠点及び強み・特色を有する分野における全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を掲げ、その一環として、COC事業とCOC+事業(地域志向人材の育成・認証)による学生の県内企業の就職率向上や産官学連携事業による地域産業界への貢献に取り組んでおり、学長自ら、県内企業の状況を把握し、連携の可能性を確認した。



視察の様子

美濃焼新春見本市で新作を披露

岐阜県陶磁器工業協同組合連合会(河口一理事長)

岐阜県陶磁器工業協同組合連合会に所属する13組合は、新春恒例の「2018年美濃焼新春見本市」を、多治見市、土岐市、瑞浪市で、1月11日・12日に開催した。この見本市は、組合員企業が新商品やオリジナル商品を展示し、商社等にアピールする場として毎年実施しており、各組合とも新たな取引先や販路拡大を狙う。



多治見市のセラミックパークMINOでは、笠原・滝呂・市之倉・高田の4陶工(協)33社、土岐市のセラトピア土岐では、土岐津・泉・肥田・土岐津西部・下石・妻木の6陶工(協)119社、駄知体育館では駄知陶工(協)35社が単独で、瑞浪市総合文化センターでは、瑞浪・恵那の2陶工(協)20社が出品をした。

女性の日本酒ブームに着目したおちょこや海外の和食需要向けに伝統的な模様を施した食器、透かし技術を活かしたランプシェードなど、各メーカーの趣向をこらした製品が多数展示され、国内だけでなく海外からも訪れたバイヤーが商品を手にとって活発に商談する様子で賑わった。

PICUP!

平成29年度「中小企業活路開拓調査・実現化事業」取組事例のご紹介

今年度、全国中央会補助事業「中小企業活路開拓調査・実現化事業」に県内3組合等が採択され、事業に取り組んでいますので、各事業内容を紹介いたします。

同事業は、既存事業分野の活力向上・新陳代謝、取引力の強化、海外展開戦略、情報化の促進、技術・技能の継承など、中小企業が単独では解決困難なテーマについて、連携して取り組むプロジェクトを支援するもので、①中小企業組合等活路開拓事業(展示会等出展・開催事業を含む)、②組合等情報ネットワークシステム等開発事業の2分野において募集・実施されています。

なお、同事業について、平成30年度の募集が開始されています。詳細は、指導課(058-277-1102)までお問い合わせください。

また、漠然とでも何かに取り組みたいとお考えの場合も、是非、本会にご相談下さい。全力でサポートさせていただきます!

① 中小企業組合等活路開拓事業

○土岐市陶磁器卸商業協同組合(齊木克躬理事長)

【事業テーマ】アメリカ市場における土岐市美濃焼の新販路創出のための市場調査事業
【事業内容等】ニューヨークの小売店や量販店、外食産業の25店やJETRONewYorkを訪問し、価格や流通動向を聞き取りにより市場調査をした。アメリカ市場進出に向けた販売体制を構築し、展示会の出展により現地企業との直接取引やパートナー企業の創出を図ることを最終目標としている。



NYの家具雑貨店 スーパーの雑貨売り場

② 組合等情報ネットワークシステム等開発事業

○岐阜県花崗岩販売協同組合(曾我太平理事長)

【事業テーマ】組合施設の保安監視システム導入に関する基本計画策定事業
【事業内容等】組合の施設(火薬庫)における保安監視システム導入に向けた基本計画の策定を行った。保安管理システムの導入により、管理体制の強化を広くPRすることで、組合員の工事等の受注及び組合火薬の取扱量増加を目指す。また、今後は地域におけるリニア中央新幹線に関連する工事の石材需要の増加を期待し、組合施設の管理システムに加えて、受発注や事務の効率化を図るためのシステム導入にむけ、更に検討を行う。



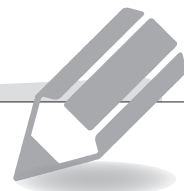
検討会の様子

○協同組合エヌシーリンク(川田基弘理事長)

【事業テーマ】高度なセキュリティを備えた販売管理システムの構築
【事業内容等】クレジットカード事業で運用している現行のコンピューターシステムを一新し、カード情報セキュリティの国際統一基準「PCIDSS」へ対応「セキュリティの向上」、クレジットカード偽造防止対策のための「ICカード対応」、システム運用に係る「運用コストの削減」、「組合員・カード会員へのサービスの向上」を行うシステムの構築を行った。



検討会の様子



中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第20回は中央会事務局の“ベストファーザー”小林係長に筆を執っていただきました。



「これからも笑顔で頑張ります」

国際・情報課 係長 小林 寛司

国際・情報課の小林です。

早いもので中央会に入職して、この4月で丸20年になります。

中央会に入って初めに配属された部署は、少しはパソコンが触れるということで、情報企画課（現在の国際・情報課）でした。その部署で約10年間、主に組合の情報化に向けた業務を担当したのち、高山にある飛騨支所で2年間、支所勤務を経験しました。現在は本部に戻り、平成25年2月から続いています中小企業・小規模事業者の設備投資等を支援する“ものづくり補助金”の業務に携わっています。

最近は、「中央会本部」（OKBふれあい会館）の他にも、ものづくり補助金を管理する2つの事務所「岐阜県地域事務局」（第1岐阜県ビル）と「ものづくり支援室」（第2岐阜県ビル）を行き来して、仕事をしています。

さて、話は変わりますが、皆さんは日頃より心掛けていることは何かございますか？

私はなるべく“笑顔”でいることを心掛けています。

小さい頃から母親によく“性格は顔に出る”“怒ってばかりしているとキツネ目になる”と聞かされていたこともあって、普段から笑顔を意識していましたが、少し前に家庭であったことで改めて“笑顔”を心掛けようと思いました。

そのこととは、夫婦喧嘩の時と物思いにふけっている時です。3歳の娘が私の険しい表情を見て、気を遣ってか“これ以上ない作り笑顔”をしながら「パパ、笑って」と、話し掛けてくることがありました。

赤の他人に言われたら、100%無視してやり過ごすのですが、可愛い愛娘のため仕方がなく、無理やり表情を“笑顔”に作り変えて自分の感情を抑えていたら、なぜか先ほどの不快な感情はいつの間にか忘れ、自然と穏やかな気持ちになっていました。

この時、私は“作り笑顔”一つで、その場のムードと気分が切り替わったことに少し驚きを感じました。

ある調査によると、子供は1日に400回笑うのに対して、大人になるとわずか15回にも減ってしまうそうです。なぜこんなに違うのかというと、子供には笑うことに対する概念が無く、無条件で笑うことに対し、大人は今まで経験した様々な事により、固定観念を無くすことが難しく、「明日、〇〇だから嫌だなー」といった雑念が入って自然と笑う回数が減ってしまうからだそうです。

子供たちのようにいつも笑顔でいたらいいのですが、大人になると笑ってばかりいられないという悲しい現実もあります。

ただ、「笑う門には福来たる」といったことわざもあるように、笑顔には“ストレス解消”、“免疫力アップ”、“血行促進”、“自律神経が安定する”など様々なプラスの効果があり、また、作り笑顔でも脳の中樞を刺激して同等の効果が得られると言われています。

皆さん、今日から一日30回の笑顔（作り笑顔OK）にチャレンジしてみてもどうですか？

最後に常に好奇心を持って自分のスキルアップに努め、組合・組合員の皆様方のお役に立てるよう“笑顔”で頑張っていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。



愛娘と戯れる小林係長



景況レポート

平成29年
12月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名
の情報連絡票から

〔I〕12月の特色

◆景況感DI値マイナス19

～前月比4ポイントの改善～

◆販売価格DI値プラス4

～2年1カ月ぶりにプラスの値を記録～

〔II〕12月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転1、悪化20で、DI値はマイナス19となり、前月のDI値マイナス23に対し、4ポイントの改善となった。

業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス11となり、前月比9ポイントの改善、非製造業のDI値はマイナス26となり、前月比±0ポイントの横ばいとなった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、可児工業団地の1業種(前月比-1業種)。

また、「悪化」と回答した業種は14業種(前月比-4業種)となっている。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス3で前月比±0ポイントの横ばい、販売価格DI値はプラス4で前月比6ポイントの改善、収益状況DI値はマイナス20で前月比7ポイントの悪化、資金繰りDI値はマイナス9で前月比1ポイントの改善、雇用人員DI値はマイナス4で前月比2ポイントの悪化となり、販売価格・景況感DI値がやや改善、収益状況・雇用人員DI値がやや悪化という結果となった。また、販売価格DI値が平成27年11月以来およそ2年ぶりにプ

スの値を記録した。

コメントを見ると、製造業では、「12月も各企業の業績はおおむね良好と言った所で推移している。景気の底上げ感があり、前年12月よりも上向いた様子が見えてくる。(メッキ)」、「可児工業団地全体の景況感は2016年8月より好調が続く。団地全体の使用電力量も前年同月比12.2%増とプラスが続く。可児工業団地の景気のヤマは過去10年で最も高い。(可児工業団地)」など、プラスの内容が多く報告された。

非製造業では、「株価はどんどん上がっていくが、建設業界が好景気だという実感はない。どの企業も先行き不安から設備投資を控え、内部留保に回しているように思える。また、建設予定があっても、求人難からくる建設費用や資材価格の高騰で、様子見をしているように見受けられる。(電設資材)」、「例年の年始・年末のイベント関係の仕事があるが、規模と予算の縮小が見られる。業界の景況が悪化している要因として、一般的に予算の厳しい案件が多くなっていることが挙げられる。(広告美術)」などマイナスの内容が多く報告された。

その他、「国内外を問わず12月は低迷している。中には施設が空いているにも拘らず、人手不足のため受入ができないなど、人手不足が深刻化している事業者も出てきている。(長良川畔旅館)」、「宅配便と呼ばれる小口配送は、年末納期遅れを通達した。貸切便においても、乗務員不足、トラック不足の中、輸送需要は増加し、納期対応が厳しくなった。その中、各運送会社は、納期対応するために協力会社への要請を行う。その支払運賃の上昇が今回の販売価格上昇に繋がっている。(貨物運送事業)」など、雇用について問題を抱えているというマイナスの内容が報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加28、減少31でDI値はマイナス3となり、前月のマイナス3に対し、±0の横ばいとなった。

売上高が増加した業種は20業種(前月比±0業種)あり、食肉(国産)、菓子、米菓、メンズアパレル、銘木、東濃ひのき、プラスチック、砂利生産、砕石生産、刃物等金属製品(輸出)、メッキ、県金属工業団地、可児工業団地、機械・工具販売、共同店舗(飛騨)、クリーニング、電気工事、貨物運送(県域)、軽運送、貸植木業である。

売上が減少した業種は22業種(前月比±0業種)あり、特に商店街、サービス業の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇14、低下10でDI値はプラス4となり、前月のマイナス2に対し、6ポイントの改善となった。

販売価格が上昇した業種は10業種(前月比+3業種)あり、牛乳、食肉(国産)、菓子、銘木、刃物等金属製品(輸出)、可児工業団地、青果販売、石油製品販売、貨物運送(県域)、貸植木業である。

販売価格が低下した業種は7業種(前月比-2業種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転7、悪化27でDI値はマイナス20となり、前月のマイナス13に対し、7ポイントの悪化となった。

収益状況が好転した業種は5業種(前月比-5業種)あり、銘木、メッキ、可児工業団地、機械・工具販売、下呂温泉旅館である。

収益状況が悪化した業種は19業種(前月比±0業種)あり、特に繊維・同製品、商店街、サービス業の区分で多かった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転1、悪化10でDI値はマイナス9となり、前月のマイナス10に対し、1ポイントの改善となった。

資金繰りが好転した業種は1業種(前月比±0業種)あり、可児工業団地である。

資金繰りが悪化した業種は7業種(前月比-1業種)となった。

雇用人員の動向は、前年同月比で増加8、減少12でDI値はマイナス4となり、前月のマイナス2に対し、2ポイントの悪化となった。

雇用人員が増加した業種は6業種(前月比±0業種)あり、菓子、米菓、機械すき和紙、メッキ、可児工業団地、木造建築である。

雇用人員が減少した業種は9業種(前月比+2業種)となった。



県内中小企業

(12月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
食 料 品	牛 乳		△	○	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)		○	○	△	△	△	△
	菓 子		○	○	△	△	○	△
	米 菓		○	△	△	△	○	△
織 維 ・ 同 製 品	製 麵		△	△	△	△	△	△
	撚 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	△	▲	△	△	△
	毛 織 物		▲	△	▲	▲	△	▲
木 材 木 製 品	製 材		△	△	△	△	△	△
	銘 木		○	○	○	△	△	△
	家 具		▲	△	▲	△	▲	▲
	東 濃 ひ の き		○	△	△	△	△	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		△	△	△	△	○	△
	特 殊 紙		△	△	△	△	▲	△
	紙 加 工 品		△	△	△	△	△	△
印 刷	印 刷		△	△	▲	▲	△	△
化 学 ゴ ム	プ ラ ス チ ッ ク		○	△	△	△	△	△
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)		△	△	△	△	△	△
	タ イ ル		▲	△	△	△	△	△
	窯 業 原 料		▲	△	△	△	△	△
	石 灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		△	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		○	△	△	△	△	△
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産		○	△	△	△	△	△
	鑄 物		△	△	△	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)		○	○	△	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)		△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ		○	△	○	△	○	△
	県 金 属 工 業 団 地		○	△	△	△	△	△
	可 児 工 業 団 地		○	○	○	○	○	○
輸 送 用 機 器	金 型		△	△	△	△	△	△
	輸 送 用 機 器		▲	△	▲	△	△	▲

非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		△	△	△	△	△	△
	陶 磁 器 産 地 卸		▲	△	▲	▲	△	▲
	機 械 ・ 工 具 販 売		○	▲	○	△	△	△
小 売 業	青 果 販 売		△	○	△	△	△	△
	水 産 物 商 業		▲	△	▲	△	△	▲
	家 電 機 器 販 売		△	△	△	△	△	△
	メ ガ ネ 販 売		△	△	△	△	△	△
	中 古 自 動 車 販 売		△	▲	△	△	▲	△
	石 油 製 品 販 売		△	○	△	△	▲	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)		○	△	△	△	△	△
商 店 街	生 花 販 売		▲	△	△	△	▲	△
	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街		▲	△	▲	△	△	▲
サ ー ビ ス 業	高 山 市 商 店 街		▲	△	▲	△	△	▲
	自 動 車 車 体 整 備		△	△	△	△	△	▲
	長 良 川 畔 旅 館		▲	△	▲	▲	▲	△
	下 呂 温 泉 旅 館		△	△	○	△	△	△
	高 山 旅 館		▲	△	▲	△	△	△
	ク リ ー ニ ン グ		○	△	△	△	△	△
	広 告 美 術		▲	▲	▲	△	△	▲
	旅 行 業		▲	△	▲	△	△	▲
	理 容 ・ 美 容 業		△	△	△	△	△	△
	建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)		▲	△	△	△	△
土 木 (飛 騨 地 区)			▲	△	△	△	△	△
建 築 設 計			▲	▲	▲	▲	△	▲
鉄 構 造 物			△	△	△	△	△	△
電 気 工 事			○	△	△	△	▲	△
管 設 備 工 事			△	△	△	△	△	△
建 築 板 金			△	△	△	△	△	△
室 内 装 飾			△	△	△	△	△	△
木 造 建 築			▲	△	△	△	○	△
運 輸 業		貨 物 運 送 (県 域)		○	○	▲	△	△
	軽 運 送		○	△	△	△	△	△
	貸 植 木 業		○	○	△	△	▲	△

凡 例 ○ : [増加]、[上昇]、[好転]
 △ : [不変]
 ▲ : [減少]、[下降]、[悪化]

○中小企業活路開拓調査・実現化事業の募集について

全国中央会では、中小企業が単独では解決が難しい課題を解決するため、中小企業組合等で連携して取り組むプロジェクトを支援する事業を募集しています。

組合の活性化に向けた重要なプロセスとして、事業活用をご検討いただきますようご案内いたします。事業の詳細は、本会HP (<http://www.chuokai-gifu.or.jp/>) 又は、指導課 (058-277-1102) までお問い合わせ下さい。

○岐阜県警察本部からのお知らせ

平成29年度サイバーセキュリティ月間(2/1~3/18)

現在のインターネット環境は、どの企業でも不正送金、企業情報流出等のサイバー犯罪の被害にいつ遭ってもおかしくない状況にあります。基本的なサイバーセキュリティ対策を見直すことで、今ある脅威を減らすことが可能です。まずはここから始めましょう。

- OSやソフトウェアを更新、ウイルス対策ソフトを導入・更新する
- ID・パスワードは担当者ごとに設定し、強化、使いまわさない
- 漏らしてはならない情報は外部ネットワークと分離する
- データを持ち出すときはパスワード設定と暗号化をする
- 不用意に、メールを開封、添付ファイルを開封、リンクをクリックしない など

サイバーセキュリティ対策＝企業防衛です。環境を見直し、社員教育を行いましょう。

■お問い合わせ先：岐阜県警察本部サイバー犯罪対策室Tel058-271-2424（代表）

■相談 先：最寄りの警察署、警察本部警察安全相談室Tel058-272-9110（相談ダイヤル#9110）



今年もよろしくお願ひします

昨年は、本会の事業運営に多大なるご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”をスローガンに、会員組合の皆様方の生の声を聞き、ニーズに応じた支援に取り組んでいく所存です。

また、皆様に本誌を活用いただくため、掲載記事の見直しを行っておりますので、ご意見やご提案をお寄せいただくとともに、組合員の皆様への情報提供などにご活用いただきますようお願い申し上げます。



今年も「花もち」をいただきました

高山市公設市場買受人協同組合（林利夫理事長）より、飛騨の正月を彩る「花もち」を寄贈していただきました。多くの方にご覧いただけるよう、本会本部事務所があるOKBふれあい会館の2階ロビーに展示させていただきました。

林理事長はじめ、組合役職員、組合員の皆様に改めてお礼申し上げます。



○中央会・退職者及び新規採用のお知らせ

次のとおり事務局職員の退職及び新規採用を行いましたのでお知らせいたします。

- 退職 三嶋 秀明／指導課
- 新規採用 田中 智(たなかさとし)／指導課

中央会日誌

<11月21日~30日>

- 21日 第38回岐阜県職業能力開発促進大会(ぎふ清流文化プラザ)
- 22日 平成29年度第1回岐阜地方労働審議会(岐阜合同庁舎)
- 28日 平成29年度第1回岐阜県成長・雇用戦略意見交換会(岐阜県庁)
- 中央会理事会・役員交流会(岐阜グランドホテル)

<12月1日~28日>

- 13日 岐阜中金会経営者セミナー(ホテルパーク)
- 20日 モノづくり拠点工業技術研究所技術開発棟建築工事起工式(県工業技術研究所)
- 25日 若年技能者人材育成支援事業等に係る平成29年度第2回連携推進会議(県人材開発支援センター)

<1月1日~20日>

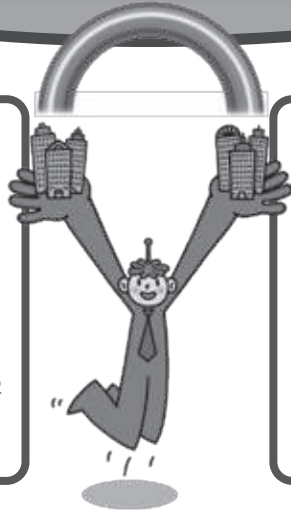
- 15日 平成29年度「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議(岐阜県庁)
- 20日 岐阜県印刷(工組)創立60周年記念式典(岐阜グランドホテル)

公益財団法人 産業雇用安定センター

次のようなケースのとき、早めにご相談ください
職員が伺いご要望を承ります

人材を必要としている企業主様

- ・事業の拡大に伴う要員確保
- ・経験豊富な即戦力の人材確保
- ・新規部門に精通した人材確保



雇用調整を検討している企業主様

- ・関係会社以外の企業への出向
- ・人員削減の検討
- ・従業員の受入先の検討

公益財団法人 産業雇用安定センターのプロフィール

- 経済・産業団体と厚生労働省の協力で設立された公益法人です
- 全国ネット、47都道府県の事務所でサポート
- 費用はかかりません

出向・移籍の専門機関



公益財団法人 産業雇用安定センター 岐阜事務所

〒500-8163

岐阜市鶴舞町2丁目6番地7

ワークプラザ岐阜3階

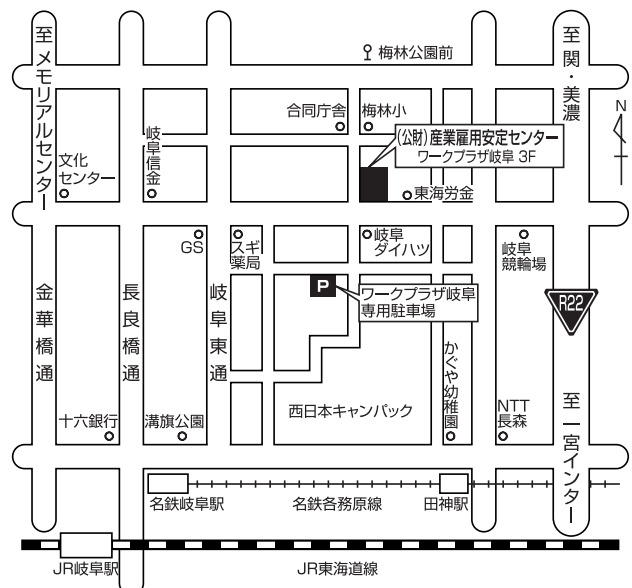
TEL 058-246-7060

FAX 058-246-7062

ご利用時間9:00から17:15
(土・日・祝日は休業)

インターネットで最新の人材情報をどうぞ

<http://www.sangyokoyo.or.jp>



※お車でお越しの場合は、ワークプラザ専用駐車場をご利用ください。

地域の中小企業と、未来を描く。

地域の経済を支える、中小企業のみなさまのために。
商工中金はさまざまな関係機関と連携して、そのビジネスをサポート。
豊かな地域社会の実現に向けて貢献してまいります。

商工中金



個人のお客さま向けの定期預金です。

有利な金利設定
(当金庫内比較)

固定金利の半年複利
(元本保証)

1年、2年、3年から
期間が選べる

\\ 安心、確実、お得に増やす \\

マイナーベスト

商工中金は、国とともに、中小企業をサポートする金融機関です。

岐阜支店 058(263)9191/高山営業所 0577(32)3353

人を想う。未来を想う。
商工中金